The Panasonic Report

for Global Corporate Citizenship Activities

松下電器グループの企業市民としての社会貢献活動レポート

Panasonic

ideas for life

グローバルな企業市民として
より良き社会づくりに向けて
「育成と共生」に取り組んでいます

松下電器グループは創業以来、「社会の公器として、事業を通じて社会に貢献する」との経営理念を基軸に、常に「お客様第一」を念頭に置いて事業活動を展開してまいりました。

21世紀の今、地球規模の環境破壊の深刻化や、先進国と発展途上国との経済格差の拡大、急速に進むデジタル化・ネットワーク化の普及格差などに直面しており、これらを解決して持続可能な社会を実現することは人類共通の喫緊の課題です。

当社はそうした課題解決に向けて、最先端技術で「ユビキタスネットワーク社会の実現」と「人類と地球環境との共存」に貢献することを事業ビジョンに掲げ、エレクトロニクス製品の製造販売を中心に広範な事業をグローバルに展開しています。

この経営理念、事業ビジョンに照らして、私たちが生み出す製品・サービスはすべて、「地球環境への負荷を極力低減すること」と「老若男女、健常者にも障害のある人でもどなたでも使いやすい」ユニバーサルデザインを必須条件としております。生み出す製品・サービスで貢献するだけでなく、当社すべての活動が、社会と調和しているのか、お客様にお役に立てる価値を提供できているのか、社会が抱えている問題解決に貢献できているのかを常に反芻しながら、時代に合わせて革新し続けることが、社会的使命・責任を果たす上で大切なことだと認識しています。

さらに、本業による貢献に加えて、より良き社会づくりに向けて、会社、あるいは一人ひとりの社員が市民として、何ができるのかを考え、積極的に行動することも大切だと考えています。「育成と共生」を共通の行動理念に、各国で取り組んでいる様々な社会貢献活動は、グローバルな企業市民として欠かせません。

当社の企業市民活動は主に「子ども」「環境」「福祉」の3分野に重点を置いています。子どもたちは将来を担う宝物です。しかし、世界では経済格差による貧困や紛争、環境破壊で健康被害などの重大な影響をまっ先に受け、傷ついているのは子どもたちです。また、国内では昨今、子どもたちを取り巻く事件や事故が多発しています。私たちは、子どもたちの健全な育成のため、コミュニケーション能力の向上や創意工夫を促す「キッド・ウィットネス・ニュース・プログラム」など様々なプログラムを用意しています。「学校林プロジェクト」のように豊かな自

然環境を次の世代に残すための活動も、世界中で積極的に行っています。年齢や性別、生活上の様々な障害、人種、民族など一人ひとりが多様性を認め、お互いを尊重しあい、世界中の人々が共生できる活動にも力を注いでいます。

当社には、個人的にボランティア活動に参加して、一歩先んじた市民活動で活躍している社員がたくさんいます。松下電器グループは、そんな社員も応援しています。

私たちは、企業としての良心を発露したいとの思いで、様々な社会貢献活動を行っています。しかし、一企業や個人でできることには限りがあります。活動の輪が広がることで、社員、会社そして社会全体が元気になり、より良き方向に向かう、私たちは微力ながらそのきっかけづくりができればと願うものです。社会貢献活動は、継続が大切だと思います。これからも着実に、歩みを進めていきたいと思います。

最後になりましたが、このレポートを手にしていただきました皆様、日頃からご支援を賜っている皆様に心より感謝申しあげます。

Panasonic
ideas for life

2006年6月
松下電器産業株式会社
社長

中村邦夫

キッド・ウィットネス・ニュース・プログラム
Kid Witness News

子ども

世界に広がる教育支援プログラム「KWN」

KWN(キッド・ウィットネス・ニュース)は、これまでに世界で8万人以上の子どもたちが体験した教育支援プログラムです。小学校からハイスクールまでの子どもたちが課外活動や授業の一環としてビデオ制作に取り組み、その過程でたくさんのことを学んでいきます。ニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、コマーシャルなど、内容は様々。毎年、多くのユニークな作品が生まれています。

松下電器はカメラや編集などの機材を貸与し、使い方や作り方を指導しています。そして、できあがった作品を集めてコンテストを開き、映像のプロやジャーナリスト、教育専門家などの協力を得て審査し、優秀作品が毎年表彰されます。

ビデオを制作するには様々な力が必要です。発想力と創造力、表現力とコミュニケーション力、テーマを捉える社会意識も芽生えます。監督、カメラマンなどの役割分担も欠かせません。1本の作品を創る中で子どもたちは考える力を育て、一人ひとりの役割を理解し、尊重し、チームワークの素晴らしさと作り上げた喜びや達成感を味わいます。

日本では2003年、財団法人 松下教育研究財団に「KWNプロジェクト」が発足し、活動が始まりました。2004年には、国際部門賞に輝いた作品もあり、着実にレベルも上がっていることが、実証されています。2006年はそれまでの指定校の枠を外し、公募で寄せられた中から選出しています。

KWNには今年、世界18カ国約500校1万人の子どもたちが参加しています。どんな作品が仕上がるのか楽しみです。

「撮影を通して**他人を尊重**することを学びました。**他人はどんなことが好き**で、何が嫌いかということを考えられるようになったんです。」
（生徒／米国）

「撮影後、セバスチャンはガラリと変わりました。**自分に自信が**持てたんだと思いますよ。」
（先生／米国）

「僕は**表現せずにはいられない**んで音楽を作っている。現代音楽のスタイルを変えて**新しいもの**を作ることができたら**素晴らしい**。」
（生徒／イタリア）

「音楽を**自然の映像**にマッチさせることにこだわり、1週間かけて**オリジナルの曲**を作りました。」
（生徒／カナダ）

「最近のイタリア教育現場では生徒がただ先生の話を聞く受動的な授業より**自主的に発言**するなど、**生徒が主役に**なるような授業が増えています。ビデオ制作は生徒が主役になれる**絶好のチャンス**なのです。」
（先生／イタリア）

「KWNの活動をきっかけに、**ニュースキャスター**を目指して猛勉強中です。」
（生徒／シンガポール）

「サンドイッチの**包み紙は今までゴミ箱**に捨てていました。でもどうにかして、この**ゴミを活用**できないかと考えるようになりました。」
（生徒／ UAE）

子どもたちの手によるビデオ作品

小さな町の芽吹きが世界へ

KWNは1984年、米国ニュージャージー州の小さな町で教育委員を務める、米国パナソニックの社員の発案で芽を出しました。その地域は当時、中南米からの移民が増えつつあり、学校や地域で誤解や小さな対立が起こっていました。「お互いの文化や考え方を知れば理解できるはず」。そう考えたその社員はコミュニティごとにビデオを制作し、お互いに鑑賞してもらったと、1988年に赴任した私に話してくれました。

そんなエピソードに端を発して、企業の社会貢献活動としてパナソニックが始めたのがKWNです。当時、ニューヨークなど都市部の公立校は、テキスト代にも苦労する状態で、学校は荒廃していました。そんな中で、子どもたちが熱中できる教育プログラムはないだろうか。ビデオ制作を通して教育を支援するKWNは、こうして5都市19校でスタートしました。

KWN活動が始まると、子どもたちが社会の様々な問題に目を向けた作品を発表して地元のメディアで取り上げられたり、KWN活動に参加したいがために不登校の生徒が学校に帰ってきたりと、その教育的効果も報告されていました。米国パナソニックもその点を評価して、参加校を2年目に50校、3年目に100校と急速に拡大した結果、現在は全米50州で220校以上が参加しています。そして、この数年では米国外でも世界各地でKWN活動が急速に広がってきています。

子どもたちの創ったビデオには、自分たちの環境や社会の問題に対する素朴な疑問や子どもらしい観察眼、探究心などが鋭く反映されていて、大人たちの心を打つ作品もたくさんあります。

未来を担う子どもたちが情熱を傾けて打ち込めるプログラム— KWNはそうあり続けてほしいと願っています。

松下電器産業株式会社
コーポレートコミュニケーション本部
国際グループ
北出谷叔宏

1988年から1997年まで米国で広報担当としてKWN活動に参画。現在はKWNグローバル展開の事務局を担当しています。

私の学校には「学校林」があります。
『となりのトトロ』のように、私たちも学校の雑木林の中で遊べます。
下草を刈ったりして、ちゃんと手入れをする方法だって知ってます。

学校林ではいろんなことができちゃいます。
植物や動物の観察をしたり、絵を描いたり、楽器も気持ちよく弾けます。
シイタケ栽培、たけのこ掘り、山小屋作り、木の手入れなどなど、
もっともっとたくさんのことが学べそう。
ワクワクしながら勉強もできるし、
悲しいときにもここにくればいつも元気になれちゃう。

みんな学校林が大好きだから！

学校林プロジェクト

環境

子どもたちが自然と向き合える第一歩をサポート

学校林は、昭和20年代に児童や父兄の奉仕活動によって森林を造成し、その収益を学校施設改善の財源に充てるという目的で盛んになりました。しかし、大半の学校林は、植林後30年近く経過しているため、下草刈りや枝打ち、除伐を必要とする荒廃した森林になっています。

このような実態から、子どもたちが安全・安心して森に入れる環境を作り、自然の中での学習や貴重な体験をしてもらうことを目的に、松下電器では、2002年より財団法人 オイスカが進める学校林プロジェクトを支援してきました。

2005年には、首都圏で初めて「学校林を活用したふるさとづくりフォーラム」が開催されました。会場となった横浜市立谷本小学校は、創立130年余の歴史を有する全国でもめずらしい、構内に学校林を持っている小学校です。一昨年、これまで立ち入り禁止となっていた谷本の森が、先生や地元の方、松下電器社員の協力で見事に整備され、環境活動はもとより音楽や詩の朗読会にと、今や学校の諸活動に欠かせない存在になっています。この「フォーラム」では、学校林活動に造詣の深い東京大学の永田教授をはじめ、谷本の森づくりに携わってこられた様々な方のトーク、間伐材を使った2万個の積み木遊び、および松下電器が支援している新日本フィルハーモニー交響楽団のメンバーによるミニコンサートなど、盛りだくさんの内容で行われました。

松下電器では今後とも、健やかな子どもの成長を促す活動と、地球環境との共存につながる活動をともに実現していく、「学校林プロジェクト」を支援していきます。

“行かねばなるまい”という思い

学校林プロジェクトのボランティアに参加したのは社内のホームページに、私が卒業した谷本小学校の名前を見つけたことがきっかけでした。卒業してから20年以上も訪れたことがなかったのですが、当時と変わらないたたずまいで、思い出がよみがえってきました。蒸し暑い中、生い茂る学校林を生徒や保護者の皆さんと一緒に楽しく整備しました。貴重な学校林を守るお手伝いができてよかったと思います。これからも機会があれば参加したいですね。

パナソニック
モバイルコミュニケーションズ株式会社
ネットワークス事業部
海老名孝行

母校の学校林を守っていきたい。

学校林プロジェクトを通して人が育っていきます

環境教育だけでなく、国語や算数…あらゆる学習に役立ち、感じる力を育む学校林プロジェクトは、単に森を保全するのが目的ではありません。その先にある人づくり、協働づくりが狙いです。もちろん子どもたちのための活動ですが、私も育てられている人間の一人です。

私たちは、人と人、地域や社会をつなげるのが役目と考えています。そんな私たちの信念を再確認したのが、谷本小学校のプロジェクトでした。松下電器と校長先生、そして私たちの呼びかけに、他の先生や子どもたち、父兄や地域の人々、卒業生、最後は行政まで参加して実現しました。

のちに再び訪れたとき、養護学級の子どもたちが笑顔で森を散策している姿を見て、みんなの力が一体になった感じで、胸がジーンとしました。

松下電器は人と人をつなぐため、最初に「この指、止まれ」と指を出してくれる“仲間”です。

財団法人 オイスカ
吉田俊通さん

財団法人 オイスカ
OISCA International(OISCA)は世界各地で農村開発協力、環境保全、人材育成、普及啓発を行っているNGOです。

2005年に社会貢献表彰・社長賞を受賞した芳本光司(手前)

「バリアフリーサークル BECo」のハンディキャップスキーキャンプ

福祉

一人ひとりが主人公

松下電器は年齢や性別、障害の有無や人種などを越えて、すべての人たちが共生できる社会を目指しています。また、そのような活動を続けている社員を応援するために、「ボランティア・市民活動資金支援プログラム」などの制度を設けています。

さらに永年にわたる活動実績があり、地域社会から高い評価を得て、全社員の見本となる活躍をしている社員を表彰する「社会貢献表彰制度」を、2005年に創設しました。

ヘルスケア社の小石原靖が代表を務める「バリアフリーサークルBECo」は今年、発足10周年を迎えました。バリアフリーというと、障害のある人にとっての生活上の不便さを取り除くイメージがありますが、BECoが考えるバリアフリーとは、さらに介助する人、される人、居住地域や身分、年齢などすべての壁を取り除くことにあります。例えば、ハンディキャップスキーやバーベキュー大会など年5回のイベントに参加する延べ300人の年齢は1歳～70歳。「皆が対等な友だちとして一緒に楽しみ、交流の輪を広げています」と小石原。

松下ホームアプライアンス社の芳本光司は大阪パントマイムグループ「ホールパフォーマンス」のリーダーです。自身、耳が不自由ですが、思いを自由に表現できるパントマイムと出合って新しい可能性を発見しました。これまでの公演回数は300回以上。世界中の人々とともに笑い、感動を分かち合っています。

芳本は2005年、小石原は2006年に社会貢献表彰・社長賞を受賞しました。市民としての社員一人ひとりの活動が、すべての人々が共生する社会を目指しています。

年齢、職業…
すべての壁を越えて

私のボランティア活動歴は社歴と同じ、1982年からです。最初は戸惑いもありましたが、2年かけて知的障害のある子どもとコミュニケーションが取れた喜びをきっかけに、バリアを越えて友だちの輪を広げる活動に取り組むようになりました。

BECoでの友だちの輪は年々広く、強くなっています。これまで2組のカップルが誕生していますが、1組は倍以上の年齢差という衝撃的ゴールインでした。また、スキーキャンプで大雪に見舞われ川崎に戻ってきたのが真夜中過ぎになった際は、帰宅できなくなった15人を仲間が分宿させてくれました。そこまで仲良くなれたかと思うと喜びもひとしおでした。

ボランティア活動というと始めるには少し勇気が必要かもしれません。でも身構えず、かしこまらず、気軽に一歩踏み出してみてはいかがでしょうか。

ヘルスケア社
医用システム事業部
小石原 靖

いろいろ考える前に
友だちになりましょう。

特集 4

ブッシュ・クリントン・カトリーナファンドに贈呈

松下電器グループでは、世界各地で起こった大規模な自然災害や、事故災害などに対し、被災した地域や政府、救援活動を行うNGOなどに、緊急救済機材や製品の提供をはじめ、救援支援金、社員への救援活動や寄付活動の呼びかけなどの支援活動を展開しています。

災害支援

米国南部ハリケーン

2005年8月の米国南部ハリケーン災害では、被災者救済や、被災地の復興に役立てていただくために、グローバルに義援金募金を実施。会社のマッチング額を合わせ、総額100万ドル(1億1,400万円)を支援しました。

【主な内訳】

- 米国「ブッシュ・クリントン・カトリーナファンド」へ50万ドルを寄付。
- 米国赤十字社へ50万ドルを寄付。
- (社)日本経済団体連合会に200万円、(社)関西経済団体連合会に30万円を寄付。

災害直後、緊急に要する乾電池、懐中電灯、洗濯機など、すぐに必要とされる松下電器製品をいち早くお届けしています。

パキスタン地震

2005年10月のパキスタン地震では、被災者救済や、被災地の復興に役立てていただくために、グローバルに義援金募金を実施。物資の支援も含め、総額5,435万円相当を支援しました。

【主な内訳】

- 国内従業員募金額1,599万円に、本社マッチング額等を加え、総額3,205万円を、日本赤十字社へ寄付。
- 海外各地域では、総額1,320万円を支援。加えて、パナソニック マーケティング ミドルイースト(有)より、250万円相当の乾電池、懐中電灯等の物資を支援。
- (社)日本経済団体連合会経由 NPO法人 JEN を通じ、緊急性の高いテント60張(300万円相当)を支援。
- (社)関西経済団体連合会に30万円を寄付。
- 現地での状況を社会に伝えるために、ジャパン・プラットフォームへ、パソコンとプロジェクターを寄贈。

フィリピン・レイテ島地すべり

2006年2月のフィリピン・レイテ島南部地すべり災害では、被災者救済や、復興に役立てていただくために総額610万円相当を支援しました。

【主な内訳】

- 松下電器として、500万円(215.5万ペソ)をレイテ島Maasin教会の社会貢献センターに寄付。
- フィリピンにおける松下グループとして110万円(50万ペソ)をフィリピン社会福祉開発省に寄付。

レイテ島 Maasin 教会の社会貢献センターへ贈呈

子ども

演劇「子供のためのシェイクスピア」

主催、協賛、社員参画　日本

親子でシェイクスピア劇を楽しんでもらおうと、1995年から毎年夏に、全国各地で開催。さらに中・高校生のためのワークショップ、舞台づくりの公開など、身近に舞台に触れる機会も積極的に提供しています。

パナソニックわくわく体験ディスカバリー

主催　日本

子どもたちに様々な芸術文化に触れてもらおうという目的で、2004年にスタートしたワークショップ。2005年4月と5月は伝統工芸編（陶芸・木工）、8月には演劇編を開催しました。

ドリカムスクール

共催、社員参画　日本

子どもたちに「働くこと」について考える機会を提供するプログラムを、NPO法人Jaee等との協働で実施。松下電器グループの社員が「ユニバーサルデザインの商品を企画しよう」「会社を作ろう」という内容で、授業を行いました。

次世代を担う子どもたちを育むために

**現代の子どもたちを取り巻く環境は、
必ずしも温かいまなざしに満ちたものとは言えません。
松下電器グループは、次世代を担う子どもたちを育成、支援する活動を
世界各地で展開しています。**

ディベート甲子園

協賛:寄付　日本

読売新聞社と全国教室ディベート連盟は、ディベートの普及と質の向上を目的に、1996年より全国大会を開催。松下電器は第3回大会から支援し、第6回大会からは、「松下賞」を制定し、ディベート教育の発展を応援しています。

学生による学生のためのコンサート

協賛:寄付　日本

（財）日本交響楽振興財団が主催するこのコンサートを松下電器は2002年のスタート時より支援。高い技術を持ちながら演奏の機会の少ない音大生に場を提供し、中・高校生に本物のクラシックに親しんでもらい、鑑賞マインドを育てています。

「Re:C」活動

NPO支援　日本

「Re:C」とは、多様な文化背景を持つ子どもたちが映像を使って自己表現・情報発信する活動です。松下電器は、NPO法人たかとりコミュニティセンターで行われているこの活動の運営を支援しています。

手づくり乾電池教室

主催　日本

乾電池の中の仕組みや働きを理解することで、ものづくりの大切さや楽しさに触れてもらいたいと、松下電池工業（株）は、春・夏・冬休みの「手づくり乾電池教室」をはじめ「出張電池教室」、「遠隔電池教室」、さらにバレーボール教室を組み合わせた「キッズスクール」などを開催しています。

「こころを育む総合フォーラム」

（財）松下教育研究財団主催
日本

物質的な豊かさに反比例して、心の世界の空洞化が進んでいる現代、日本人の心のあり方を探究し、提言していこうとフォーラムを設立しました。日本人の心のありようをめぐり、様々な課題について 民間の英知を集めて討議し、明らかにしたいと考えています。

発起人：（財）松下教育研究財団理事長、元文部科学大臣 遠山敦子

パナソニック・アカデミック・チャレンジ

協賛:寄付・製品寄贈　米国

この大会は、全米から集まる高校生チームが、数学や科学などの問題にチャレンジし、奨学金や賞品を獲得するというもの。パナソニック ノースアメリカ㈱は、スポンサーとして支援しています。

読書習慣促進キャンペーン

協賛:寄付　ブラジル

子どもたちに読書の習慣を持ってもらおうと、パナソニック ブラジル(有)は、Itau銀行と提携し、同社の所在地付近に住んでいる3歳から12歳の子どもたちに、2,000冊の図書を寄贈しました。

パナソニック地域奨学金

奨学金　フィリピン

2005年度パナソニックフィリピン大学生奨学金として、パナソニック マニュファクチャリング フィリピン㈱は、12名の学生を選抜し、奨学金を授与しました。

ちびっこエンジニア教育

社員参画　英国

子どもたちが科学や工学に興味を持つように、パナソニックMC開発ヨーロッパ㈱のエンジニアは、地元の学校で毎年、サイエンスデイを開催。講義は、技術革新はいかにしてビジネスを刷新するかというもので、子どもたちは技術力とビジネス力を試す課題に取り組んでいます。

YCサマーフェスト2005

協賛:寄付、社員参画　米国

若者や子どもとその家族を支援し、育成する活動をしているYCS(ユース・コンサルテーション・サービス)が、新学期スタート前のイベントとして開催。パナソニック ノースアメリカ㈱では、同イベントに40名以上の社員が参加し、一人ひとりに学校用の教材や備品を贈りました。

復旦大学「パナソニック講座」

協賛:寄付　中国

1996年の復旦大学創立90周年に際し、同大学の要請を受け、中国の将来を担う若手経営人材の育成に貢献することを目的として、松下電器が20万ドルを寄付して設立。中国の要人、海外の著名な学者、松下電器の経営幹部等により、多くの講演を実施。これまでの累計受講者数は12,000人を超えています。

パナソニック スカラシップ活動

奨学金　台湾

パナソニック台湾(株)は、1989年から1998年までの間、総勢52名の留学生を日本へ派遣。1999年からは、パナソニック スカラシップ(株)が毎年2、3名の日本留学生に奨学金を支援。この活動によりパナソニック台湾(株)とパナソニックスカラシップ(株)は、台湾行政院教育部より表彰されました。

学校建設と文房具寄贈

協賛:寄付・製品寄贈　タイ

これまでタイで75校の学校建立に貢献したパナソニック シュー販売タイ(株)は、2004年には75校に文房具を寄贈しました。また、毎年12校にテレビ、DVDレコーダー、ミニコンポ等の製品を提供しています。

環境

親子自然体験塾

主催、社員参画　日本

“親子で学ぼう！自然に学ぼう！”をテーマに、野外で活動する自然学習プログラムを2000年から開催。地域のご家族や社員家族が多数参加し、当日の運営は社員がボランティアとして参画しています。

LE（Love the Earth）活動＝地球を愛する市民活動

社員参画　日本

LE活動は「企業人であると同時に一人の家庭人、社会人として環境に配慮できる市民であること」を目指し、従業員とその家族のエコライフ実践を支援する活動として1998年にスタートしました。エコライフ実践の内容を8つの項目で定義して行動の指針としています。

❶エネルギーを節約しよう
❷買い物にはエコバッグを持っていこう
❸食生活でエコをしよう
❹環境に配慮したモノを選ぼう
❺モノを大切にして長く使おう
❻ゴミを出さずにリサイクルしよう
❼地球への負担の少ない交通手段を選ぼう
❽環境ボランティアに参加しよう

省エネ生活を楽しく気軽に続けられるように作成した環境家計簿には、社員約37,000世帯で取り組んでいます。

豊かな環境を次世代に残すために

松下電器グループは、グローバルな緊急課題「人類と地球環境との共存」を目指して、様々な社会貢献活動を展開するとともに、社員一人ひとりの価値観の変革も必要だと認識し、社員参画型の活動を続けています。

世界自然・野生生物映像祭

協賛:寄付・機材提供　日本

1993年からNPO法人 地球映像ネットワークが、富山県で開催している映画祭で、松下電器は1999年より映像機材提供等で支援。全世界から寄せられる貴重なフィルムを通して、野生生物や地球環境の保護・保全の大切さを学んでもらうため、国立科学博物館や上野動物園での定期上映会も実施しています。

森の聞き書き甲子園 映像化プロジェクト

協賛:寄付・機材提供　日本

林野庁とNPO法人 樹木・環境ネットワーク協会が実施している「森の聞き書き甲子園」に参加した高校生のOB・OGを中心に、森の名手名人を訪ね、森と関わる知恵や技術を映像で記録するプロジェクト。ビデオカメラやパソコンなどの機材提供のほか、カメラの使用方法から撮影・編集にいたるまでの研修も含めて支援しています。

全国学校ビオトープコンクール

協賛:寄付・製品寄贈　日本

㈶日本生態系協会が運営する、幼稚園から大学までの全国の学校を対象に、野生の生物が自立できる環境空間を学校の敷地内に再生する活動のコンクール。隔年開催で、松下電器は2003年より特別協賛。上位入賞5校には、「環境大臣賞」「文部科学大臣賞」などの副賞として、松下電器製品を贈呈しています。

松下グリーンボランティア倶楽部（MGV）

社員参画　日本

約7万人の社員、組合員、退職者が基金を拠出して1993年に設立。松下電器グループ各社も同額をマッチングギフトで支援。森林や緑地公園の保全活動をはじめ、海岸、河川敷や地域のクリーンアップ運動、研修・啓発活動を行っています。

マレーシア植樹活動

協賛:寄付、社員参画　マレーシア

小学校のグラウンドで植樹活動を実施したパナソニック コミュニケーションズ マレーシア㈱の社員は、「私たちの環境を守ろう」とのスローガンのもと、環境に関する基礎知識を身につけ、子どもたちに環境問題について教えました。

使用済み電気製品回収イベント

共催、社員参画　米国

パナソニック ノースアメリカ㈱では社員や地域住民に呼びかけ、使用済み製品や携帯電話を回収拠点に持ち込んでもらい、フォーンズ・フォー・ライフに寄付。そこでは古い携帯電話を新品に交換し、緊急電話や災害時の連絡用に必要とされる人々に配布しています。

リサイクル活動推進により受賞

社員参画　英国

パナソニック コミュニケーションズ イギリス(株)は、芸術教育活動に再利用できるように、きれいな廃材等を学校に寄付。この地域でのリサイクルに対する取り組みが認められ、2004年11月の英国セバーンサイド社主催のリサイクル賞において、3部門で表彰されました。

唐山市栄華道小学校への「環境教育基金」

協賛:寄付　中国

パナソニック 溶接システム唐山(有)は、地元の河北省唐山市で環境教育に力を入れ、全国のモデル校に指定されている栄華道小学校に対して、環境教育に必要な教育設備の購入のために、5万人民元を寄付しました。

アマゾン マナウス植樹活動

協賛:寄付、社員参画　ブラジル

マナウス市の植樹キャンペーンに参加したパナソニック ブラジル(有)は、オイティスの木を2500本寄贈。植樹活動にも、社員が参加。10mの高さにまで成長するオイティスは、マナウス東部の道路沿いや庭園に植えられました。

ECOS環境財団

協賛:製品提供　フィリピン

パナソニック　マニュファクチャリング フィリピン(株)は、地球環境保護のためのオゾン層をテーマにした、ECOS環境財団主催の移動展示活動にDVDプレーヤーやテレビを提供。展示では、雪や生きているペンギンで南極大陸が再現されました。

広州開発区植樹活動

協賛:寄付、社員参画　中国

2005年3月、パナソニック 万宝コンプレッサー広州㈲の幹部および多くの社員が、広州科学城で植樹活動に参加しました。また、広州開発区に3万人民元を寄付し、“地球環境と共存する”記念碑を立てました。

福祉

岡山吉備高原車いすふれあいロードレース

協賛:寄付、社員参画　日本

車いすランナーと一般ランナーがともに同じコースを走り、人と人との温かい輪を広げることを目的とした本大会の事務局を、1996年から吉備松下㈱が担当。地元の多数のボランティアや企業、団体に支えられた大きな大会に発展しています。

すべての人々が共生できる社会を目指して

年齢、性別、生活上の様々な障害、国籍、人種、民族など、一人ひとりが多様性を認め、お互いを尊重しあい、誰もが自分らしく生きることのできる社会を目指して、様々な活動に取り組んでいます。

フィーリングアーツ

協賛:製品寄贈、NPO支援　日本

心を癒す効果があると言われる、現代美術作家・北村義博氏が創造した未来派アート「フィーリングアーツ」。子ども養護施設、高齢者施設、病院などでの同氏の公演を主催しているフィーリングアーツボランティア委員会を支援しています。

KIDS プロジェクト

協賛:寄付・施設提供、社員参画　日本

NPO法人 KIDSが主催する様々な障害のある子どもたちと東京ディズニーランド(TDL)で楽しい一日を過ごすプロジェクトに社員ボランティアが多数参加するとともに、松下電器ではTDLのパナソニックラウンジを子どもたちの休憩場所や運営本部として提供しています。

ツイン21チャリティコンサート

主催、社員参画　日本

社員ボランティアの運営による手づくりのコンサートを大阪ビジネスパーク(OBP)にあるツイン21のオープンな空間を会場にし、毎年開催しています。会場ではチャリティを募り、障害のある人々の芸術活動を支援する「松下電器 ハートフルメセナ基金」の財源としています。

手話通訳技能認定試験の運営サポート

協賛:機材・施設提供　日本

毎年、東京と大阪で開催される手話通訳技能認定試験に、松下電器は1992年から試験会場、AV機器などの試験機材一式を提供。技術者も派遣し、当日の運営を支援しています。

映画『ビリーブ』制作への機材提供

協賛:機材提供　日本

アジアで初めて開催された「スペシャルオリンピックス冬季世界大会・長野」で、知的発達障害のある人たちが自分たちで世界に伝えようとドキュメンタリーを撮影。松下電器はその撮影クルーに機材を提供しました。

わたぼうし音楽祭

協賛:製品寄贈　日本

奈良たんぽぽの会、㈱日本青年奉仕協会が主催する、障害のある人たちへの理解と共感を深めることを目的とした音楽祭。障害のある人たちの詩にメロディをのせ、生命や社会、未来を歌ってきました。松下電器は1976年より支援しています。

日本ライトハウス展2005

協賛:寄付、NPO支援　日本

日本最大の視覚障害者向けの用具・電子機器展である「日本ライトハウス展2005」において、その運営を支援するとともに、松下電器はこれまで㈳日本ライトハウスのご協力を得て、障害者に配慮した点字・音声取扱説明書やユニバーサルデザインの商品開発を行っています。

「ウォーク・アメリカ」募金キャンペーン

協賛:寄付、社員参画　米国

パナソニック ノースアメリカ(株)は、先天性欠損症や、未熟児、乳児死亡の研究活動に取り組んでいるマーチ・オブ・ダイムズの「ウォーク・アメリカ」募金キャンペーンを10年以上にわたり積極的に支援。本社施設、各拠点施設の提供をはじめ、多くの社員がボランティアとして活動に参加しています。

パナソニック ふれあいコンサート

主催、社員参画　日本

福祉施設や病院にいる人たちに、新日本フィルハーモニー交響楽団のメンバーによる演奏を楽しんでもらおうと、2002年より開催。子どもたちに直接楽器にふれてもらうなど、温かいふれあいを大切にしたコンサートです。

ファミリーハウスや大阪YWCAへの製品寄贈

協賛:製品寄贈　日本

難病の子どもとその家族のための滞在施設を運営するNPO法人 ファミリーハウスや、DV被害者の自立支援センターを運営する㈶大阪YWCAに、洗濯機や掃除機などの家電製品を寄贈しています。

SHAREプログラム

協賛:寄付、社員参画　シンガポール

シンガポールの松下電器グループ各社は、シンガポール社会福祉協議会の障害者を支援するための寄付を募るシステムである「SHAREプログラム」を活用して、社員が毎月一定額の寄付を実施。会社も同額をマッチングして寄付をし、シンガポール社会福祉協議会より感謝状をいただきました。

啓発人形劇プロジェクト

協賛:寄付、社員参画　日本

NPO法人 難病のこども支援全国ネットワークでは、病気や障害のある子が地域で生活をしていく時に少しでもつらい思いをしなくてすむように、子どもたちへの理解を促す人形劇を上演しています。そのプロジェクトに支援をするとともに小学校や子ども会などで上演する活動に社員も参画しています。

日本点字図書館への支援
(視覚障害者用テープレコーダーの開発)

NPO支援　日本

視覚障害者に点字図書や録音図書を貸し出す活動を展開している(社福)日本点字図書館。松下電器は1966年より録音図書を聴くための視覚障害者用テープレコーダーを開発し、30年以上にわたって読書する喜びをお届けしています。また、同館主催のチャリティ映画会も支援しています。

2006年3月30日
日経産業新聞に掲載

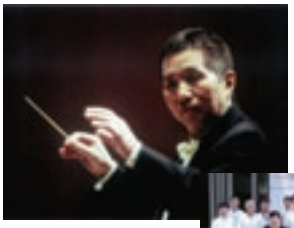
みんながともに元気になるために［芸術文化、NPO・NGO支援］

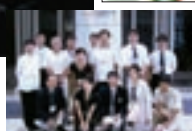
**みんながともに元気になるようにとの思いを込めて、様々な分野で社会貢献活動をしています。
子ども、環境、福祉の分野はもとより心を豊かにする芸術分野への支援やNPO・NGOへの支援、
社員のボランティア・市民活動を支えるためのプログラムなども用意しています。**

ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル(NYSE)公演

主催、社員参画　日本

NYSEは世界的に有名なニューヨーク・フィルハーモニックとメトロポリタン・オペラ・オーケストラの有力メンバーを中心に組織された楽団。毎年夏に、音楽の裾野を広げ、若手音楽家を育成するという目的で、日本においてツアーコンサートを開催、松下電器もその一部を主催。コンサートをライブ録音しCDやDVDを制作するなど、本業を活かした活動も行っています。大阪公演では、会場ロビーで、障害のある人々の芸術文化活動に役立てられる「松下電器 ハートフルメセナ基金」への募金活動を実施。社員ボランティアも運営を支援しています。





パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)

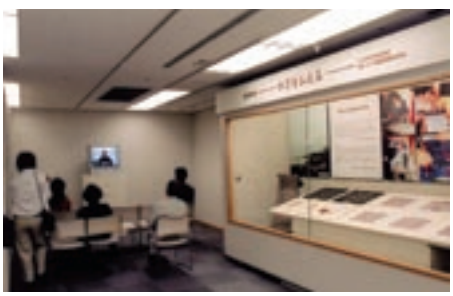
協賛:寄付　日本

1990年に故レナード・バーンスタインが創設した国際教育音楽祭。毎年、世界各地のオーディションで選ばれた約110名のアカデミー生を札幌に集め、世界の著名音楽家がレッスンを行います。また参加者で結成されたPMFオーケストラによる演奏会を、日本各地で開催。松下電器は、1991年よりグランドパートナーズの1社として支援し、2003年からは大阪公演を特別協賛しています。

日本の伝統工芸の振興

協賛:寄付　日本

松下電器は、日本文化の保存や振興を願って、多岐にわたる支援活動を行っています。その活動の一つが日本の伝統工芸に対する支援です。松下電器は、1960年代より、日本工芸会への基金提供をはじめ、支援活動を継続しています。「日本伝統工芸展」は7つの分野(陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・その他工芸)の作品が一堂に集まる展覧会です。ここで優秀な成績をあげた地元の作家や新進作家を対象に、「松下賞」を提供しています。



藝術夜会/カルチャートーク

主催　日本

社会とアートをつなぐという目的のアート入門プログラム。2005年、大阪での藝術夜会では「京劇入門」「シェイクスピア入門」「ヨーロッパ現代美術の今」「プロデューサーが語るクラシック音楽事情」などを開催。東京でのカルチャートークでは「フェルメールを読み解く」「古代エジプト美術入門」「シルクロードを歩いて」を開催しました。

12時間美術館

共催　日本

パナソニックセンター東京で「2日間、12時間限定」の移動可能な現代美術空間 エコ美術館をNPO法人 AITと共催。エコポスターの展示、映像作品やリサイクルの仕組みが学べる子どもワークショップ等を行いました。

シチズンシップ・コラボレーション(CC)カレッジ

主催　日本

松下電器では、NPOや学生と協働で、地球市民として私たちを取り巻く課題(環境・人権・グローバリゼーション・多文化理解など)について、ともに考え・学ぶ参加型学習プログラムである「CCカレッジ」を開催しています。2005年度は「国際協力(理解)」をテーマに大学生など53名が参加しました。

ボランティア・市民活動資金支援プログラム

社員参画、NPO支援　日本

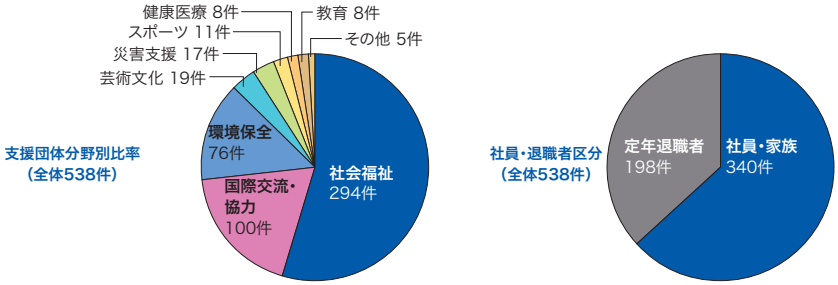
松下電器は1998年4月、社員やその家族、定年退職者が行っているボランティア活動や市民活動に対し、その活動資金の一部を会社が支援する制度を設けました。社員等の積極的な社会参画を推進し、その活動の支援を通じて社会に貢献することを目指しています。

このプログラムは、社員等が継続的に活動を行っている非営利団体(NPO)に対し、活動全般に関わる費用(機材購入、記念行事開催、事務所運営など)の一部を支援するというものです。

2005年度までに、538件のプログラムに対し総額1億1,975万円の支援をしました。

C.W.C救助犬チーム:台風21号被害による三重県での土砂災害行方不明者捜索活動

リサイクル工房竹炭塾:自作の釜に原料となる竹を仕込む子どもたち



Panasonic NPOサポート ファンド(旧称:Panasonic サポーターズ☆マッチング基金)

NPO支援　日本

近年、日本でも市民の自発性に基づく多様で活力ある社会参加の形として、NPO(非営利組織)・NGO(非政府組織)活動の重要性がますます高まってきました。

しかし、その活動に必要な体制の整備に手が回らないといった問題が切実になってきているのも事実です。そこで、松下電器は、次世代を担う「子ども」そして「環境」に関わる活動を行う団体の「基盤強化」を応援しようと、2001年にPanasonicサポーターズ☆マッチング基金を設立しました。以来、NPO法人 青少年育成支援フォーラムとNPO法人 地球と未来の環境基金と協働で、子どもの健やかな成長を応援する31団体、並びにエコライフを推進している26団体の基盤強化を応援してきました。

そして、2006年4月からは当基金の「第2ステージ」と位置づけ、新たな協働事務局のもと基金の名称もPanasonic NPOサポートファンドと変えて「子ども」や「環境」に取り組む団体の基盤強化を応援する助成プログラムとして更なる充実・発展を目指します。

【協働事務局】

子ども分野:
NPO法人 市民社会創造ファンド

環境分野:
NPO法人 地球と未来の環境基金

基盤強化事業の取り組みや成果の共有とネットワークの構築を目的に公開ミーティングを開催しています。

2005年度子ども分野助成団体

- **NPO法人 ちゅらネット(沖縄県)**
  スタッフの能力向上を図る人材養成事業
- **NPO法人 ファミリーハウス(東京都)**
  経理および会員管理業務の効率化を図る基盤強化事業
- **NPO法人 キララ(兵庫県)**
  子どものための性に関する情報サイト運営のための人材養成事業
- **NPO法人 発達カウンセリングポップシップ(東京都)**
  経理処理および情報の共有化を中心とした運営改善事業
- **NPO法人 演劇百貨店(東京都)**
  子どもたちとの参加型舞台芸術活動の実践と劇あそび集作成事業
- **NPO法人 トッカビ子ども会(大阪府)**
  在日ベトナム人の子どもたちを対象にしたルーツ語を学ぶための教材作成事業
- **NPO法人 カリヨン子どもセンター(東京都)**
  職員・スタッフの子どもへの対応力の向上、並びにスタッフの「支援策」の検討事業

2005年度環境分野助成団体

- **NPO法人 フェアトレード・ラベル・ジャパン(東京都)**
  「フェアトレード」ラベル普及のための広報力強化
- **NPO法人 国頭ツーリズム協会(沖縄県)**
  エコツーリズムの人材養成と広報基盤拡充
- **NPO法人 おきなわ環境クラブ(沖縄県)**
  エコツアーに係る経営資源の整備事業
- **NPO法人 エコネット丹後(京都府)**
  広報・プレゼンテーションツールの開発
- **NPO法人 環境ネットワーク・文京(東京都)**
  学校における温暖化防止活動の人材育成講座の実施
- **NPO法人 おかやまエネルギーの未来を考える会(岡山県)**
  広報基盤の整備と人材研修の実施
- **NPO法人 持続可能な開発のための教育の10年推進会議(東京都)**
  持続可能な開発のための教育(ESD)の入門テキストとCD-Rの制作

欧州

【子ども】
ちびっこエンジニア教育実施
キッド・ウィットネス・ニュース(KWN)プログラム実施
【環境】
リサイクル活動推進
【福祉】
アフリカ食料支援のチャリティーマラソン支援
職業専門学校支援
チャリティコンサート開催
がん研究団体の「レース・フォア・ライフ」支援

アジア・太平洋州

【子ども】
パナソニック・フィリピン地域奨学金提供
学校建設と文房具寄贈
キッド・ウィットネス・ニュース(KWN)プログラム実施
パナソニック奨学金提供
【環境】
ECOS環境財団支援
マレーシア植樹活動
清掃キャンペーン実施
【福祉】
献血運動
マラヤ大学日本語講座見学ツアー実施
職業訓練学校支援
障害者支援団体支援
デング熱予防活動
SHAREプログラム支援
【災害支援・その他】
ハリケーン・カトリーナ救援募金
スマトラ島沖地震・インド洋大津波災害支援募金
パナソニック・現代絵画展の開催
「パナソニック・スターチャレンジ」開催

中国・北東アジア

【子ども】
パナソニックスカラシップ活動
復旦大学「パナソニック講座」支援
【環境】
広州開発区植樹活動
小学校への「環境教育基金」支援
【福祉】
社会福祉施設支援
職業学校教育基金支援
献血運動
【災害支援・その他】
スマトラ島沖地震・インド洋大津波災害支援募金
「日本の歌コンサート」支援

日本

【子ども】
演劇「子供のためのシェイクスピア」公演
「パナソニックわくわく体験ディスカバリー」開催
「ディベート甲子園」協賛
「ドリカムスクール」支援
「Re:C」活動支援
「学生による学生のためのコンサート」協賛
「こころを育む総合フォーラム」開催
「手づくり乾電池教室」開催
キッド・ウィットネス・ニュース(KWN)プログラム実施
【環境】
LE(Love the Earth)活動＝地球を愛する市民活動
松下グリーンボランティア倶楽部(MGV)
「親子自然体験塾」開催
「全国学校ビオトープコンクール」支援
「世界自然・野生生物映像祭」支援
「森の聞き書き甲子園映像化プロジェクト」支援
【福祉】
「岡山吉備高原車いすふれあいロードレース」支援
「ツイン21チャリティコンサート」開催
映画『ビリーブ』制作支援
「わたぼうし音楽祭」支援
「パナソニックふれあいコンサート」開催
「フィーリングアーツ」支援
「KIDSプロジェクト」支援
「啓発人形劇プロジェクト」支援
「手話通訳技能認定試験」への機材・会場提供
「日本ライトハウス展2005」支援
ファミリーハウスや大阪YWCAへの製品寄贈
日本点字図書館への支援
【災害支援・その他】
米国南部ハリケーン災害支援
パキスタン地震災害支援
フィリピン・レイテ島地すべり災害支援
スマトラ沖地震津波災害支援
新潟豪雨災害支援
福井豪雨災害支援
Panasonic　サポーターズ☆マッチング基金
ボランティア・市民活動資金支援プログラム
「シチズンシップ・コラボレーションカレッジ」開催
「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル」公演支援
「パシフィック・ミュージック・フェスティバル」支援
「藝術夜会」開催
「カルチャートーク」開催
日本の伝統工芸の振興支援

2004/2005年度における松下電器グループの主な社会貢献活動

北米

【子ども】
キッド・ウィットネス・ニュース(KWN)プログラム実施
パナソニック・アカデミック・チャレンジ支援
「YC サマーフェスト2005」支援

【環境】
使用済み電気製品回収イベント共催

【福祉】
「ウォーク・アメリカ」募金キャンペーン参加
難聴大学に製品・設備・資金提供
病院へのプラズマテレビ寄贈
子どものためのチャリティイベント支援
筋ジストロフィー協会支援
日本文化交流ツアー支援

【災害支援・その他】
ハリケーン・カトリーナ災害支援
パナソニック・ハーモニーシリーズ実施

中南米

【子ども】
読書習慣促進キャンペーン共催

【環境】
アマゾン マナウス植樹活動

【福祉】
日本語学習促進支援
消防署への製品寄贈

【その他】
メキシコ州立オーケストラ支援
「セルバンティノ芸術祭」支援

編　集　後　記

松下電器産業株式会社
社会文化グループ
グループマネージャー
小西ゆかり

松下電器グループは創業以来、"社会の公器"として、様々な社会貢献活動を行ってまいりました。「育成と共生」に貢献しうる意義のある活動を目指して、「子ども」「環境」「福祉」の分野に重点を置き、これからも「事業を通じて社会に貢献する」という創業以来の松下の経営理念のもと、地域や行政、NPO・NGO等の協力も得つつ、技術・人材・資金・ノウハウを活用した活動をグローバルに展開してまいります。そしてまた、社員一人ひとりが、社会貢献活動を通じて社会の問題に気づき、行動するための様々な機会も提供してまいります。
ここにご紹介したのは現在、取り組んでいる活動の一部にすぎませんが、本レポートで、世界各地域で社会貢献活動を展開する松下電器グループの姿と社員の活動への思いが伝われば幸いです。
最後までお読みいただき、ありがとうございました。これからもいっそうのご支援とご協力をお願いいたします。

Panasonic
ideas for life

■表紙の写真

ハンディキャップ スキーキャンプ (P.8)	キッド・ウィットネス・ニュース・プログラム (P.4)
岡山吉備高原 車いすふれあい ロードレース (P.14)	
森の聞き書き甲子園 映像化プロジェクト (P.12)	学校林プロジェクト (P.6)

GPN Green Purchasing Network 印刷サービス
印刷サービスのグリーン購入に取り組んでいます

Waterless Printing. Naturally.

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association

R100

松下電器グループの社会貢献活動ホームページ
http://panasonic.co.jp/ccd

お問合せ先
松下電器産業株式会社
社会文化グループ

■本社:〒571-8501　大阪府門真市大字門真1006
電話(06)6909-6700(直通)

■東京:〒105-8581　東京都港区芝公園1-1-2
電話(03)3434-3510(直通)

発行:2006年6月